

”超”を目指す軸受技術研究会（第3種，主査 森 淳暢）：

本研究会は，軸受技術の基礎研究や応用・開発に携わっている者，気軽に何となく参加してみたい者が集っていろいろな意味での”超”を議論し，情報を交換する場として運営されている。

本年度は，委員数 53 名，平均出席者数は 30 名程度で，関西大学を開催場所とし，4回の研究会を開催した。研究会での講演タイトルは以下のとおりである。

第 10 回研究会（2003 年 6 月 28 日 於：関西大学）①*DN*値 300 万級の超高速・極低温ハイブリッドセラミック玉軸受の開発（航技研 野坂正隆，菊地正孝，NTN 中村昌平），②高温高速玉軸受の発熱特性（日本精工 由井秀人，山添正信，谷口雅人，荒牧宏敏），③ケミカルクリーン軸受の諸特性について（光洋精工 豊田 泰）。

第 11 回研究会（2003 年 9 月 13 日 於：関西大学）①ウルトラマイクロガスタービン用動圧型空気軸受の開発（東京理科大 吉本成香），②高速スラスト気体軸受特性の測定と解析（東海大 橋本 巨），③玉軸受保持器公転周期振れに及ぼす玉径・玉配置の影響（東京理科大 野口昭治）。

第 12 回研究会（2003 年 10 月 25 日 於：関西大学）①オイルレスベアリングの超軸受（オイルレス工業 小澤 秀夫），②軸方向溝付き動圧気体ジャーナル軸受の安定性（NTN 古林卓嗣），③巨大すきまを有するジャーナル軸受様すきま内のテイラー渦に関する研究－深い軸方向溝を有する場合－（舞鶴高専 野間正泰，関西大 森 淳暢）。

第 13 回研究会（2004 年 1 月 10 日 於：関西大学）①デジタル磁気軸受の技術動向（光洋精工 上山拓知），②ナノメータ浮上する浮動ヘッドスライダと超薄膜液体潤滑膜との相互作用に関する研究（関西大 仙道 宏，多川則男，森 淳暢。）

研究会終了後には，話題提供者を囲んで簡単な懇親会を設けることが慣例となっており，毎度，ざっくばらんな意見交換がなされている。次年度も軸受技術に関わる話題を基とし，年 4 回の研究会の開催を予定している。

<http://web.maizuru-ct.ac.jp/control/noma/trib/tribology.html>